

## 「雄勝花物語・第3章『観光バラ園』プロジェクト」事業

# 瓦礫で埋まったふるさとを花畑に変えることを通じて 震災からの復興と持続可能な新たな町づくりに挑む

東日本大震災の激甚被災地の一つである宮城県石巻市雄勝町で、津波によって母や親戚を失った一人の女性が花を植えることで始まった「雄勝花物語」の活動。その物語は担う人、支える人がつながりあって、今も進行中である。復興から持続可能な新たな町づくりへと、終わることのないストーリーが紡がれていく。

### 第1章、第2章と紡ぎ継がれてきた物語の 第3章は法人化による自立の基盤づくり

「雄勝花物語」は2011年3月11日の東日本大震災の巨大津波で灰燼に帰した石巻市雄勝町を「花と緑の力」で復興するために、被災した住民が立ち上げたプロジェクトである。「津波の後は、真っ茶色の世界だった。この町で育ち育てられたものとして、このままでいいのかという思いがあり、とにかく色が欲しかった」と、プロジェクトの実施主体である「雄勝花物語実行委員会」の徳水利枝さんは、瓦礫に埋まった実家を整理した跡地に花を植え始めた動機を、そう語る。

2012年、徳水さんたちは実行委員会を立ち上げ、「雄勝花物語第1章・メドウガーデンプロジェクト」を開始した。メドウガーデンとは多種類のタネを一度にまいて、時期がずれて花が咲き続けるように工夫した庭だが、地元の人を含め、全国から駆けつけたボランティア(これまでに延べ3000名以上のボランティアが日本はもとより海外からもやってきたという)の力を借り、530坪の花畑が完成した。

2013年には「雄勝花物語第2章・ローズファクトリーガーデンプロジェクト」に着手。ボランティアと一緒にバラやハーブや果樹を植え、ゆくゆくは観光ガーデンやジャム工場などにするための拠点となる「雄勝花物語ローズファクトリーガーデン」を完成させた。庭の様子は、NHKの震災プロジェクト映像『花は咲く』にも採用されている。

そして、2014年。実行委員会は一般社団法人「雄勝花物語」として法人化され、「雄勝花物語第3章・観光バラ園プロジェクト」に取り組んだ。「被災地緑化支援や被災者支援の支援部門、防災教育や復興教育の教育部門を継続するとともに、自立のための事業部門を新たに立ち上げました」と、徳水さん。任意団体から一般社団法人へ

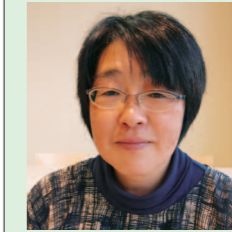
の移行は、雄勝の町や人々のための活動を今後も継続していくのだという強い意志を改めて示すものだ。AJOSCの助成は、学習室やビニールハウスの整備など、「第3章」で新たに立ち上げた事業部門の基盤づくりに活用された。

### 震災復興と持続可能な町づくりを目的に 雇用創出を目指す事業部門がスタート

現時点での事業部門のメインとなる活動は、ガーデン内で栽培されているバラやハーブを活用した商品開発と販売である。商品には、押し花ハガキ、押し花しおり、香り袋、ポプリ、ストラップ、フレッシュハーブティーなどがあるが、これらは仮設住宅に暮らす5～6名の高齢者にガーデン内の学習室に集まってもらい、そこで製作しているという。「仮設住宅にこもりがちになる高齢者や、息抜きや気持ちの切り替えの機会が少ないお母さん方にとって、外に出るきっかけになればいいと思い、あえてガーデンまで来てもらっています」と、徳水さん。

この商品づくりをサポートしているのが、ボランティアとして雄勝町にやってきて、そのまま移り住んだ30代の3名であり、押し花にする材料の準備や商品化のアイデア提案などを行っている。商品開発と並んで、押し花小物づくり、雄勝絵、寄せ植え、ハーブ栽培などの体験教室やセミナーも実施しているが、こうした教室には震災後にやむなく雄勝町を離れ、別の土地で暮らしている人が多く参加してくれているという。雄勝花物語の活動が、ふるさとと自分をつなぐ縁となっている側面もあるようだ。

### 担当者より

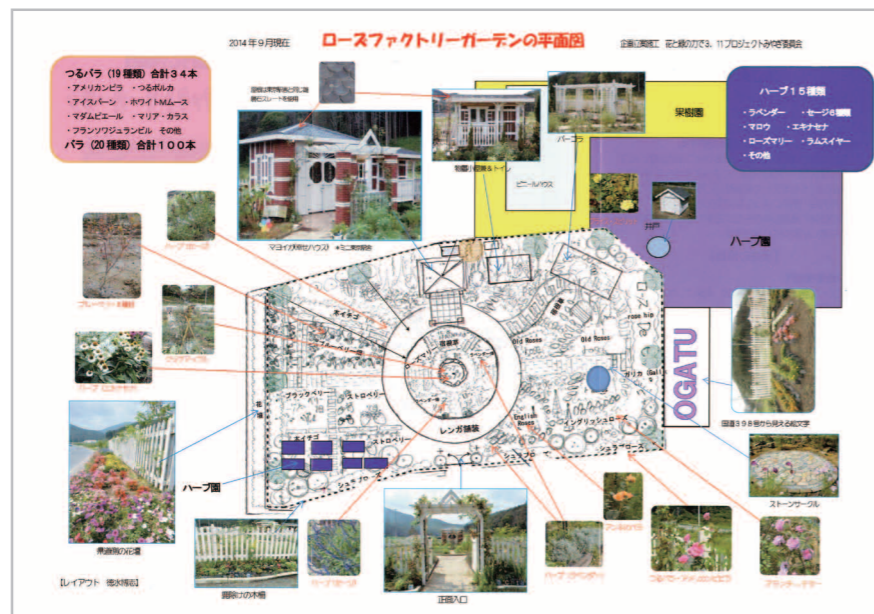


一般社団法人化で  
支援継続の意志表明と  
将来に向けた基盤づくり

一般社団法人 雄勝花物語  
代表理事  
徳水利枝さん

AJOSCの助成を活用させていただいたおかげで、事業部門の柱となる商品づくりや体験教室のための設備を充実させることができました。人手不足、資金不足など、乗り越えなければいけない多くの課題がありますが、今後も事業部門を継続・充実させていきたいと考えています。軌道に乗るまで、もう少し見守っていただければ幸いです。

この事業部門は、人口が4300人から1000人に激減した雄勝町の震災復興と持続可能な新たな町づくりを目的に、雇用創出や就労機会の提供を目指すものだが、その根底には、津波被災者である高齢者と復興のために町に残っている若者が一緒になってそこに主体的に関わることで、元気になっていけるのではないかとという願いや期待が込められている。「元気に活動する高齢者と、それを支えつつ定住する若者を融合させるために、私たち壮年世代が覚悟を決めて取り組まなければなりません。そのためにも事業部門を何とか軌道に乗せたいと考えています」と、徳水さんは話す。2015年、すでに「雄勝花物語・第4章」は始まっている。



雄勝町の復興と新たな町づくりのシンボルとして期待されているローズファクトリーガーデンの見取り図



今後、力を入れていきたいというハーブ栽培



体験教室でラベンダースティックを作る